

イランさまざま

(1)

金子 徹一

昨年8月日本を出発し 10月にイランを立つというごく短い旅でした その間 大部分を首都テヘランの街ですごし 1週間ばかりタルマッシという鉱山に見学に行きました イランという国はご承知のように むかしペルシャと呼ばれ われわれにとってはアラビアなどと共に何かおとぎの国の感じがして 欧米にくらべてかえって遠い感じのする国です しかし 国の大きさは日本の約4.5倍あり かつてのペルシャ文化は世界の中でも最高の位置を占めたこともあったわけです

私の任務は放射能探査に関する技術協力でしたので 私の見たイランの国情は巨象の指先だけであつたと思います 従つてまとまったご紹介はできませんので 私の経験した範囲のことをトピック的に記すことにします

い。車はフォルクスワーゲンの自家用車とベンツのタクシーが大部分である。ベンツというところが国では高級車だそうであるが この国ではタクシーの90%ぐらいがベンツであるので有難味は少ない。中には相当くたぶれたベンツがえらい勢でつっぱしている。イラン風の神風タクシーである。

タクシーの料金は市内2人までは75円 あと1名増すごとに25円増で 他の物価にくらべると安い。1人や2人で乗っているとき 同じ方向に行く客を拾つてよい習慣になっている。このとき前の客も後の客も規定の料金とはとられる。

バスの料金は10円ですこぶる安い。(イランの物価は平均すると日本の3倍ぐらい) イギリス製の赤い2階バスとベンツの大型バスである。地方には日野のバスがあるそうで 1回市内で見たことがある。2階バスは市内見物に愛用したが 2階から見る街の景色は道路から見るものと異なり面白い。高い塀の内側がよく見えるからである。

テヘランの自動車

テヘランの自動車界ではドイツが圧倒的である。ガソリンは 日本の半分の値段のためか 車はやたらに多



メーダン・フェルドーシのロータリー フェルドーシというのはペルシャの有名な詩人の名前で このロータリーの中央(写真の右側)に見えるのがその銅像である 噴水が左右にあり 花が緑の芝生日中に咲きみだれ美しい この場所は街の中央に当たる 写真に見えるのはベンツのタクシーで タクシーはこのように車体を白く塗っている

切符売りのボックス バスの停留場には切符売りがおり バスの車掌は切符を乗るとき受取るだけである

テヘラン大学

テヘラン大学はテヘランの市街の中央を東西に走るシャー・レザー（先帝レザー王）通りに面している。正門をはいると道は左右に分れ 中央の広場は運動場になっている。これに面して各教室があるが 何れも大理石を用いた威風堂々たる建物である。

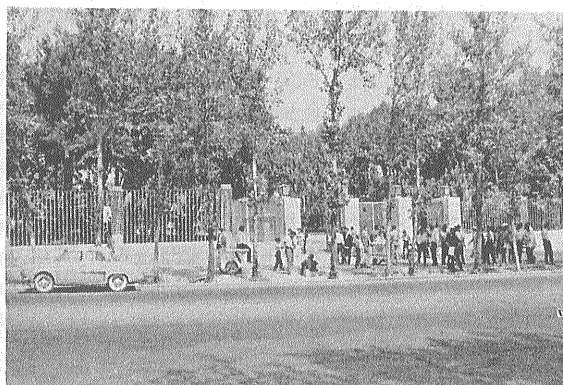
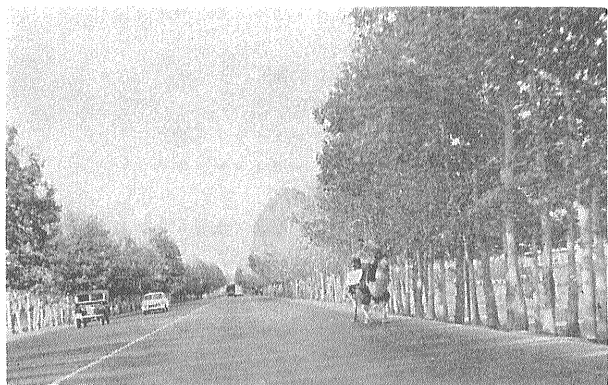
正面から左側の最初の建物は大学クラブと称して留学生や単身の客員教授の住所とパーティーを行なうことのできる広間がある。ちょうど 私が行ったころは庭には美しい花が咲き乱れ 池には噴水がふき上り 楽園といった感じがした。

グランドの向うに妙なコンクリートの建てかけの建物があったので 何かと役所の若い技師にたずねたら モスク（寺院）で“much expensive”と応えた。大学の学生の思想が悪いので お祈りでもさせて善良なる大学生を作ろうと企だてたそうだが どうも見込みがないので途中で中止したらしい。

大学生で回教を信ずる者が多いのかと尋ねたら “否、全然いない”と答えた。

イランの教育：国立の小学校は6年 中学校は義務制ではないが5年 中学校の最終学年で文科 理科に分れて進学する テヘラン大学は1935年に 先帝レザー・シャーにより創立され 文・医・法・工・農・理・神学・芸術などの学部がある この外 ダブリーズ・シーラズ・イソハンなどにも大学がある

（筆者は物理探査部 探査課長）

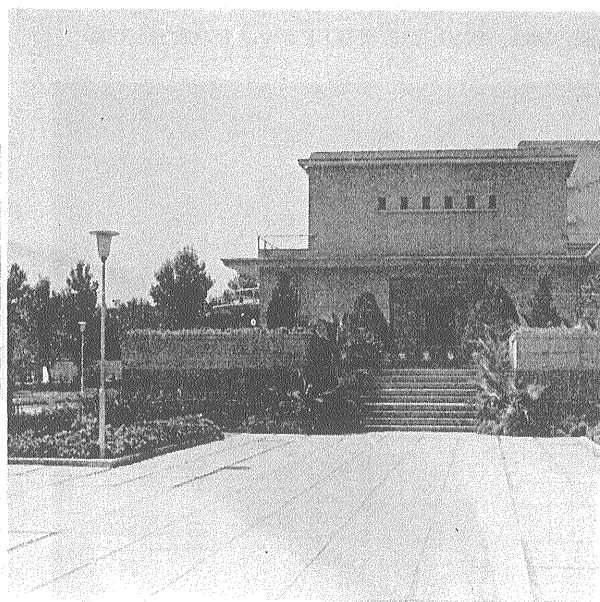


ラクダ 舗装された近代的の道にも時々ロバやラクダに出会う 往時交通機関の王者であったラクダも 今日では その地位を自動車にゆずってわずかに生きのびているようである

テヘラン大学の正門



テヘラン大学文学部の教室



大学のクラブ